

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：42307

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01202

研究課題名(和文) 社会関係を開閉する食実践と住に関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) Anthropological Research on Food Practices and Housing that Open and Close Social Relations

研究代表者

三浦 哲也(MIURA, TETSUYA)

育英短期大学・その他部局等・教授(移行)

研究者番号：80444040

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、アジア・オセアニア地域における家屋の空間利用の特徴と、食をめぐる諸実践を比較・考察し、そこで構築される人間関係の動態を明らかにした。研究の初年度は、海外調査に基づき、家屋の物理空間のデザインに対する歴史的意味づけとその変遷についての議論の深化が図られた。その後、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、海外調査を十分に行う事が出来なかったが、文献研究を深めた。綿密な文献研究に国内調査の実施を加え、海外と国内のフィールドの比較研究による分析を行い、家屋と食の関係・家屋の空間利用とそれに関わる身体イメージあるいはジェンダーについての研究が進展し、新たな視点での研究成果に繋がった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、文化人類学における親族研究において、親族関係を、「状態(～である)」というよりもむしろ「生成(～になる)」に注目して理論化する一連の「つながり」論の議論の延長線上に位置づけられる。住まい(建造物としての家屋)の物理的特徴と、そこで展開される食をめぐる諸実践を比較・考察することを通じ、遊動的な都市居住、多角化するジェンダー、複雑化する身体イメージ、といった現代的な空間的で生成展開される人間関係の多様性を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we compared and examined the characteristics of the use of space in houses and various practices related to food in Asia and Oceania. We also clarified the dynamics of human relationships that are constructed there. In the first year of the study, based on our overseas research, we deepened our discussion of the historical implications for the design of the physical space of houses and its evolution. Unfortunately, due to the subsequent spread of COVID-19, we were not able to conduct sufficient overseas surveys. However, we were able to carry out an in-depth literature study. We added a domestic survey to our literature research, and conducted a comparative field analysis between overseas and domestic fields. We have advanced our research on the relationship between houses and food, the use of space in houses, and the body image or gender related to the use of space in houses, leading to research results from a new perspective.

研究分野：Cultural Anthropology

キーワード：食実践 住空間 つながり アジア・オセアニア 文化人類学

1. 研究開始当初の背景

近年、アジア・オセアニア諸地域において社会を理解する枠組みとして、家屋空間での共有を基礎とする「イエ (house)」概念が、有効な視座を提供することが明らかとなってきた。しかし「イエ社会 (house society)」論は、概して伝統的な家屋のみを対象としており、世界中で現実に見られるドラスティックな社会変容とそれともなうドメスティックな社会空間の動的編成を十分に議論に組み込むことができていない。

そこで、本研究は、都市化、生活の近代化、移民、民族集団の混住といった世界中で現在進行中の生活世界の再編を、イエ空間 / 関係の構築に着目して考察する。その際、特に注目するのが食実践である。食をめぐる共同行為は、イエの関係を外部へと開き、内部に閉じるマテリアルな実践である。本研究は、この身体-共体的 (corpo-real/rate) な関係が、現在、いかなる変容を遂げつつあるかという問いに、個々の具体的事例から応答することを目指したのである。

2. 研究の目的

本研究では先行研究限界を乗り越え、新たな民族誌的資料を提示し、その理論的發展を試みることを目的とした。

第一に、人の移動やモノのやり取りといった文化交流の観点から社会空間としての家屋に焦点を当て、そこで展開されるイエ空間 / 関係の境界を開き / 閉じる食実践を通文化的に比較分析する。

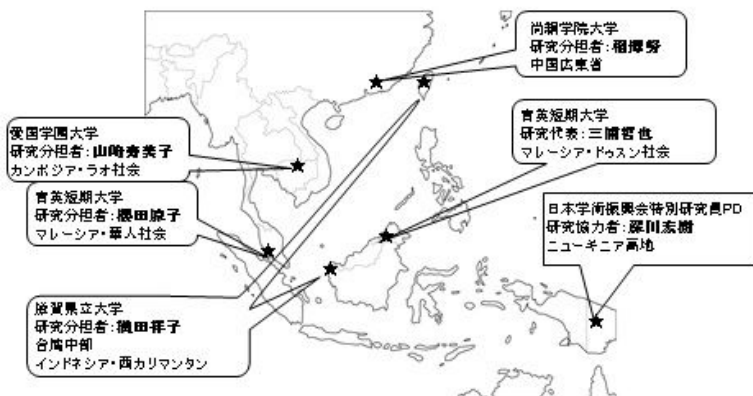
第二に、いわゆる親族関係のみならず、宗教集団や、近隣関係、都市的状况に暮らすマイノリティなど、多様な事例を幅広く対象に含める。これらの事例では、共有 (イエ) と食を通じた関係は、容易に親族集団や民族集団を越えて広がってゆく。この「越境」する共同性は、従来の公共圏と親密圏をめぐる二元論的な枠組みに疑問を投げかけ、オルタナティブな議論を形成する。

第三に、19世紀から20世紀にかけての近代都市の成立、移民・移住・出稼ぎといった流動的な居住形態、遊動民の定住化といった事象を研究対象とする。それによって「イエ社会」論やサブスタンス論においては対象とされなかったグローバルな新たな現象を把握する。そこから「イエ」関係の外延と重層性の変化、そして人々の居住空間に対する認識の転換がいかに生じるか / 生じないかを問う。

このように、通文化比較、多様な共同性のあり方への視点、グローバルな現象の把握という3点から、家屋の空間利用の特徴と、食をめぐる諸実践を比較・考察し、これを通じて構築される関係性の動態を、現代的な空間的・歴史的な広がりや深みの中において立体的に把握することを目指した。

3. 研究の方法

本研究課題は、フィールドワークに基づく実証研究である。現地調査に基づき、食をめぐる様々な社会的行為が、いかにして当該社会の集団内部の連帯、断絶、分節、差異化をもたらすかを明らかにするだけでなく、それらの実践と社会空間との相互構成的な関係を実証的に分析し、通文化的比較研究を行うことを目指す。そのため、「つながり」概念と食文化についての豊かな研究蓄積がある東南アジア地域の研究者を中心に研究組織を構成し、さらに隣接する東アジアやオセアニアで問題群を共有する研究者を加え、相互に刺激できる下記のような研究組織を構築した。



(図中の構成員の肩書・所属は研究課題申請当時のもの)

東南アジア：
マレーシア・華人社会の住宅団地における居住形態と食生活 (櫻田)

東マレーシア・ドゥスン族の家屋・家財の変容と酒宴（三浦）
インドネシア・西カリマンタンにおけるオープンハウスと異民族間関係（横田）
カンボジア・ラオ社会における発酵食品とエスニシティ（山崎）
東アジア：
中国広東省の元水上居民の居住形態の変化と食（稲澤）
台湾中部における国際結婚家庭の食をめぐる交渉（横田）
オセアニア：ニューギニア高地民社会における近代家屋への転換と食生活（深川）

4．研究成果

本研究では、アジア・オセアニア地域における家屋の空間利用の特徴と、食をめぐる諸実践を比較・考察し、そこで構築される人間関係の動態を明らかにした。

研究の初年度は、海外調査に基づき、家屋の物理空間のデザインに対する歴史的意味づけとその変遷についての議論の深化が図られた。その後、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、海外調査を十分に行う事が出来なかったが、文献研究を深めた。綿密な文献研究に国内調査の実施を加え、海外と国内のフィールドの比較研究による分析を行い、家屋と食の関係・家屋の空間利用とそれに関わる身体イメージあるいはジェンダーについての研究が進展し、新たな視角での研究成果に繋がった。

なお、本研究は、文化人類学における親族研究において、親族関係を、「状態（～である）」というよりもむしろ「生成（～になる）」に注目して理論化する一連の「つながり」論の議論の延長線上に位置づけられる。住まい（建造物としての家屋）の物理的特徴と、そこで展開される食をめぐる諸実践を比較・考察することを通じ、遊動的な都市居住、多角化するジェンダー、複雑化する身体イメージ、といった現代的な空間的で生成展開される人間関係の多様性を明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 三浦哲也	4. 巻 39
2. 論文標題 ボルネオ島・ドゥスン族社会への冷蔵庫の導入とその影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 育英短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 櫻田涼子	4. 巻 18
2. 論文標題 マレー半島のチャイニーズの食文化 移民・都市・ジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 華僑華人研究	6. 最初と最後の頁 99-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 稲沢務	4. 巻 7
2. 論文標題 高州の水上居民の陸上がりと民俗の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 華南研究	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山崎寿美子	4. 巻 180
2. 論文標題 やみつきになる発酵食品 カンボジア北東部における『パデーク』をめぐる	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横田祥子	4. 巻 13
2. 論文標題 書評 川口幸大・堀江未央(編)2020『中国の国内移動：内なる他者との邂逅』京都大学学術出版会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤木庸介, 横田祥子, セバスチャン・ヴィンセント	4. 巻 14
2. 論文標題 「インドネシア・スンバ島における民家の現状と住人の防火意識」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史都市防災論文集	6. 最初と最後の頁 131-138
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横田祥子	4. 巻 54
2. 論文標題 「家族の行方ー台湾の国際結婚」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中国21』	6. 最初と最後の頁 237-252
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻田涼子	4. 巻 88(3)
2. 論文標題 「モノがつくる社会関係 中国南京とマレー半島南部の華人婚姻儀礼にみる住宅と女性の身体」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 137-160
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲澤 努	4. 巻 46
2. 論文標題 『客都梅州』の水上居民に関する予備的報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 121-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻国慶、首藤明和、周星、稲澤努、唐燕霞、松岡正子	4. 巻 54
2. 論文標題 現代中国の家族の変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中国21』	6. 最初と最後の頁 3-38.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲澤努	4. 巻 84(1)
2. 論文標題 書評 藤川美代子著『水上に住まうー中国福建・連家船漁民の民族誌』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『文化人類学』	6. 最初と最後の頁 117-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲澤努	4. 巻 16
2. 論文標題 書評 瀬川昌久編著『越境者の人類学ー家族誌・個人誌からのアプローチ』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 華僑華人研究	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎寿美子	4. 巻 84(2)
2. 論文標題 書評 橋本道範編『再考 ふなずしの歴史』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 196-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻田涼子	4. 巻 36
2. 論文標題 複数の文化を生きる 海外にルーツをもつ日本人学生の透明化するエスニック・アイデンティティと「ハーフ」イメージについて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 育英短期大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 残される者の居場所 マレーシア華人社会の子どもと高齢者の日常から考える
3. 学会等名 日本文化人類学植松東アジア研究基金「東アジアの高齢者の住まいと居場所 アタッチメントとディタッチメントの両面に注目して」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横田祥子
2. 発表標題 ラトックを媒介にしたコミュニケーション：インドネシア西カリマンタン州の事例から
3. 学会等名 2021年度日本華僑華人学会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 深川宏樹
2. 発表標題 他なるもの の記憶から 他なるもの との生成へ ニューギニア高地の植民地期 / 脱植民地期における「白人」イメージの民族誌理論
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会「オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の 歴史記憶と感情に関する人類学的研究」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎寿美子
2. 発表標題 社会変化のなかの発酵食品 カンボジア国境域の『パデーク』をめぐって
3. 学会等名 第3回フナズシ研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎寿美子
2. 発表標題 カンボジア国境域ラオ人社会の『パデーク』をめぐる民族の接触と社会変容
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横田祥子、藤木庸介、中井均
2. 発表標題 「現在に見るギャロン・チベット族の民家の構成とその使用実態-2 中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間その5」
3. 学会等名 2020年度日本建築学会大会（関東）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横田祥子
2. 発表標題 「荒ぶる神ラトットの増殖ーインドネシア西カリマンタン州の民族関係から見る民俗宗教」
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 拡張された「ホーム」としての飲食空間 移民・都市・ジェンダー」
3. 学会等名 華僑華人学会研究大会 開催校企画シンポジウム「華人めし」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲澤 努
2. 発表標題 中国の『民族』とエスニックグループをめぐる研究動向
3. 学会等名 日本華南学会 2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲澤 努
2. 発表標題 高州の水上居民の陸上がりと信俗の変遷
3. 学会等名 日本華南学会 2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲澤努
2. 発表標題 瀬川昌久と客家研究
3. 学会等名 百年往返－台湾與日本客家研究之対話（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tsutomu Inazawa
2. 発表標題 “Reason for live in water ”
3. 学会等名 The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 コピティアム：食から考える多文化共生
3. 学会等名 駒澤大学GMSキャリア講座「多文化共生」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲澤努
2. 発表標題 中国広東省における食の資源化－汕尾を事例として
3. 学会等名 東アジア人類学研究会第6回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稲澤努
2. 発表標題 『漁民』の住空間の変遷
3. 学会等名 アジアの食と住の文化研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三浦哲也
2. 発表標題 冷蔵庫の扉は何と何を隔てるのか
3. 学会等名 アジアの食と住の文化研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 深川宏樹
2. 発表標題 言葉の重みとは何か？ 「言語身体」の概念化へとむけた一考察
3. 学会等名 国立民族学博物館共同研究会「グローバル化時代のサブスタンスの社会的布置に関する比較研究」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 深川宏樹
2. 発表標題 死に至る言葉 ニューギニア高地の伝記的な生における諸物の因果と「言語身体」
3. 学会等名 日本オセアニア学会関西地区研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲澤努
2. 発表標題 「広東二元社区論の再検討 広東省汕尾の事例から」
3. 学会等名 東北大学 東北アジア研究センター共同研究「移動と流行 移民が持ち込んだもの / 持ち込んだもの」共同研究「現代中国における内国移動とエスニシティ」2018年度第3回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎寿美子
2. 発表標題 「カンボジアにおけるピンロウジ噛み」
3. 学会等名 四街道市民大学講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎寿美子
2. 発表標題 「カンボジアにおけるニワトリと人間の関係」
3. 学会等名 四街道市民大学講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深川宏樹
2. 発表標題 「ニューギニア高地における家社会の変貌 親族と居住をめぐる社会動態」
3. 学会等名 科学研究費補助金「社会関係を開閉する食実践と住に関する文化人類学的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深川宏樹
2. 発表標題 「環太平洋地域における百科の思想序説 オセアニア島嶼部の文化と自然の関係に焦点を当てて」
3. 学会等名 科学研究費補助金「イギリスロマン主義期における百科の思想と出版」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎寿美子
2. 発表標題 「カンボジア北東部における家屋の空間利用と食の実践の変容」
3. 学会等名 科学研究費補助金「社会関係を開閉する食実践と住に関する文化人類学的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三浦哲也
2. 発表標題 科学研究費補助金「社会関係を開閉する食実践と住に関する文化人類学的研究」研究会
3. 学会等名 「ドゥスン族の家屋における「広間」について」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 「移動する人々と象徴としての食文化 マレーシア華人と変化するコピティアム」
3. 学会等名 北海道大学メディア人類学プロジェクト「メディアと社会のエスノグラフィ」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryoko SAKURADA
2. 発表標題 In Between the Choices and the Decisions: Dynamism of Rural-to-Urban Migration of Chinese Women in Malaysia
3. 学会等名 World Social Science Forum (WSSF) 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 春風社編集部 (横田祥子 分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 500
3. 書名 わたしの学術書	

1. 著者名 赤松 美和子、若松 大祐 (横田祥子 分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 424
3. 書名 台湾を知るための72章【第2版】	

1. 著者名 簡美玲・河合洋尚 (編) (稲沢務 分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 國立陽明交通大學客家文化學院	5. 総ページ数 380
3. 書名 百年往返 走訪客家地區的日本學者	

1. 著者名 横山智編（編著）（山崎寿美子 分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 農文協	5. 総ページ数 240
3. 書名 世界の発酵食をフィールドワークする	

1. 著者名 横田祥子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 258
3. 書名 家族を生み出す：台湾をめぐる国際結婚の民族誌	

1. 著者名 吉野 晃、岩野 邦康、田所 聖志、稲澤 努、小林 宏至	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北樹出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 ダメになる人類学	

1. 著者名 前川啓治、箭内匡、深川宏樹、浜田明範、里見龍樹、木村周平、根本達、三浦敦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 384
3. 書名 『21世紀の文化人類学：世界の新しい捉え方』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	櫻田 涼子 (SAKURADA RYOKO) (30586714)	育英短期大学・その他部局等・准教授(移行) (42307)	
研究分担者	稲澤 努 (INAZAWA TSUTOMU) (30632228)	尚綱学院大学・総合人間科学系・准教授 (31311)	
研究分担者	山崎 寿美子 (YAMAZAKI SUMIKO) (80706937)	愛国学園大学・人間文化学部・准教授 (32523)	
研究分担者	横田 祥子 (YOKOTA SACHIKO) (80709535)	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授 (24201)	
研究分担者	深川 宏樹 (FUKAGAWA HIROKI) (00821927)	神戸大学・国際文化学研究所・准教授 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関